資料４－２

病院状況報告

1　病院名　医療法人刀水会　齋藤記念病院
2　所在地　川口市並木４－６－６
3　病棟数及び病床数　１病棟　６０床
　病棟数　１
　病床数（現在:2017 年病床機能報告）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合　計
床	６０床	床	床	６０床

⇩

（2025 年）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合　計
床	３７床	２３床	床	６０床

＊今後変更の予定がある場合のみ記載

4　主な連携医療機関
・紹介元
　川口市立医療センター、済生会川口総合病院、戸田中央総合病院
　その他近隣診療所。
・紹介先
　川口市立医療センター、済生会川口総合病院、戸田中央総合病院
　その他近隣診療所。

5　病棟別診療状況

病棟名	病床数	報告区分	平均在院日数	病床利用率
病棟	６０床	急性期	２３日	６０％

診療科

胃腸科・内科・神経内科・腎臓内科・泌尿器科・呼吸器科
外科・整形外科・循環器科

診療実績

○・救急医療の実施状況

救急件数　２９年度　３３６件
　　　　　３０年度　７３件(４月から７月)

救急車を積極的に受け入れており、急性期から慢性期までの幅広い診療を行っている。
また、当院で対応できない専門的な治療が必要な患者は速や近隣医療機関に転送を行っている。
透析導入目的の緊急受け入れも行っている

・重症患者への対応状況

人工呼吸器が２台にて呼吸器管理も行っている。

○急性期後の支援・在宅復帰への支援の状況 ・他病院からの術後の患者等の受け入れも幅広く行っている。 ・理学療法士３名（別に９月から１名採用予定)、言語療法士１名にて早期からのリハビリテーションを実施している。 ・透析患者のＡＤＬ向上にむけてのリハビリを行っている。 ＊病床機能報告から転載、または病棟の特徴的なデータ
医療連携における課題、問題点 ○急性期医療機関： ・近隣に急性期病院が多数あり、また東京近郊ということもあり、重篤な患者の転送に関しては特に問題はない。 ○回復期、慢性期医療機関：市町村、ケアマネージャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズにいっているか ・入院してから７日以内に主治医・看護師・セラピスト・ＭＳＷにてカンファレンスを行い、病状について情報共有を行っている。 ・独居高齢者も多くキーパーソン不在の中での医療となることが多くあり、退院支援をする際に受け入れ先の病院や施設へのスムーズな移行の妨げとなっている。 ・介護保険の申請等に時間がかかり入院治療期間内に全てを終えることはできていない。
その他 ○将来の方向性　　縮小・現状維持・拡大 ○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み ・多くの人工透析患者を抱えており、施設によっては受け入れ判定の前に断られることもあり、また週３回透析に通わなければならない関係上、介護タクシーの利用が必要な患者については介護費用が高額になってしまう。対策として車いす送迎車の導入で対応しているが、希望する患者数の増加に対応できていない実態がある など ・川口市では介護保険の認定が下りるまでに２か月弱かかってしまうこともあり、急性期病院から直接在宅へ退院させるには入院日数の関係で間に合わない。 ・外来維持透析患者の通院支援（身体的・精神的・経済的）

（以下、病棟ごとに同様の書式で記載）